

一月 今月の御教え

此の方は参つてたずねる所がなかった。氏子はおかげを受けて遠路のところを参つて来るが、信心して徳を受けて、身しのぎをするようになれ。

……金光教祖御理解 第六十四節……

解説

教祖様は、大変信心深く、神仏への参拝は欠かしませんでした。しかし「此の方は参つてたずねる所がなかった」と仰るように、お宮に参つても、特に「教え」というものはありませんし、お寺に参つても、当時は国家の意向に従った道徳的な「教え」が主でしたので、心からの納得は出来ませんでした。故に教祖様は、ご自身で神仏に真摯に向かい抜かれて遂に、此の大天地の親神である天地金乃神様に出遭われたのです。そのおかげで多くの人々が教祖様の広前に参つてお蔭を受けれるようになったのであります。このように、人々にとつて、参つてお蔭を受けれる場所が出来たことはこの上なく有難いことであります。そこで、折角、遠方から時間と経費をかけて、この教祖広前に参つて来る以上は、何としても御蔭を頂き、「身しのぎ」即ち「どんな人生の苦難をも乗り越えていける神徳、人徳を頂いて帰れよ」との深い思し召しであります。なお、来年は西条教会設立百十年の記念の年をお迎えします。今年一年を大切に、共に信心の稽古に勤しみましょう。